

●各遺跡の概要（国史跡「奄美大島要塞跡及び大島防備隊跡 附 大島需品支庫跡」）

第18震洋隊基地跡（だいじゅうはちしんようたいきちあと）

令和7年9月18日指定

第18震洋隊基地跡は、瀬戸内町押角〔呑之浦〕（大島海峡の中央、加計呂麻島の呑之浦湾一帯）に所在する遺跡です。

第18震洋隊は大島海峡内3箇所に配備された震洋隊の1部隊です。南洋諸島の陥落後、沖縄に対する敵の攻略意図が明確になると、奄美大島は補給および海上特攻作戦の前線基地となるため、特攻部隊を配備することになりました。

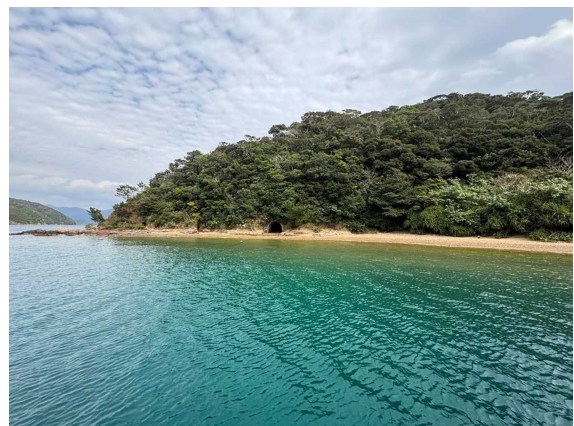
第18震洋隊は1944（昭和19）年11月に大島防備隊に編入、配備され、防備隊本部が所在する瀬相湾の東側、呑之浦湾一帯に基地施設を構築しました。建設当時は震洋艇格納壕、本部施設、兵舎等が建設されました。現在、格納壕の内部は立ち入り禁止です。また、第18震洋隊隊長であり、近代戦争文学をけん引した島尾敏雄氏を顕彰する「島尾敏雄文学碑公園」が見学可能となっております。



※令和5年3月に作成したマップです。



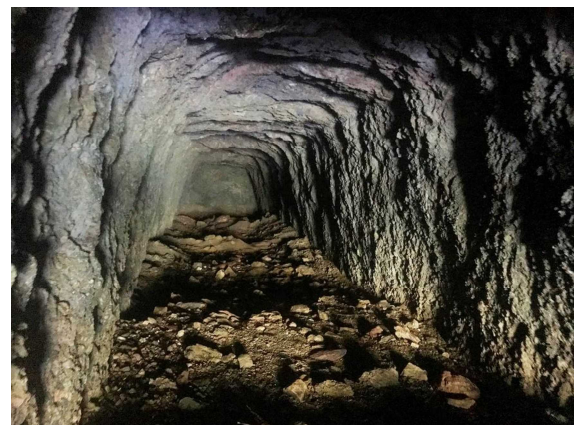
第18震洋隊基地跡（遠景）



第18震洋隊基地跡（海上より）



第5格納壕跡（入口）



第1格納壕跡（内部）